

# か 黒色火薬の時代

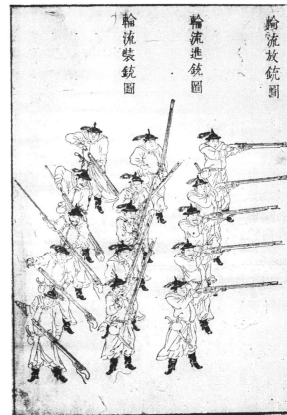
## 中華帝国の火薬兵器興亡史

米国エモリー大学歴史学教授

桜美林大学名誉教授

トニオ・アンドラーデ著 加藤 朗訳

A5判ソフトカバー 414頁 本体 3,800円 ISBN978-4-8295-0883-1



1639年頃のマスケット銃による中国の転回斉射術

### 火薬も、銃砲も、三段撃ちも中国の発明だった！

にもかかわらず、

◎なぜ中国はヨーロッパや日本にも軍事的におくれをとったのか。

◎そしてその中国が、なぜ今、大軍拡を行っているのか。

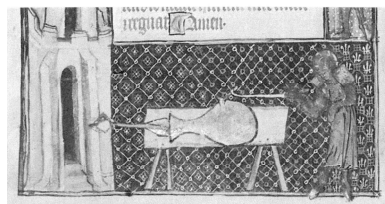
この疑問に答えるべく、

黒色火薬の時代（宋～清）に火薬兵器をめぐっておきた

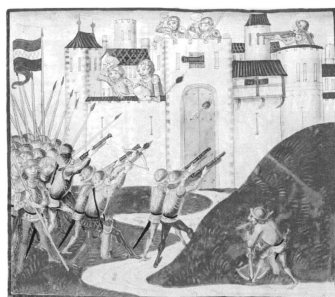
中国とヨーロッパ諸国との軍事的な大分岐を解き明かしたグローバル・ヒストリー。



ヨーロッパの銃砲、1400年代初頭



ヨーロッパにおける初期銃砲の図版 (1326年頃)。



ヨーロッパの銃器部隊 (1483年頃)

＊「長篠合戦の三段撃ちは織田信長の独創」は誤り！  
たんなる歴史のファンタジーだった

転回斉射術（三段撃ち）は中国では唐の時代から途切れることなく受け継がれてきた戦術であり、三段撃ちの起源は中国にあることを史料を基に説得力のある説を展開している。またヨーロッパ諸国でも、その起源は陣形を組んで歩兵を集団訓練していたローマ時代にあるとしている。

＊黒色火薬を使用した火薬兵器の技術的発展が兵站などの戦争の形態を変え、東西大分岐の最大の要因となった

火薬兵器の視点から描く中国の軍事技術発展の歴史

《著者》トニオ・アンドラーデ (Tonio Andrade) (1968年生) 米国エモリー大学歴史学教授。エール大学博士。専門は中国の歴史と中国から見たグローバル・ヒストリーの研究。特に東西の大分岐に関心を持ち、グローバル・ヒストリーの観点から、14世紀から19世紀にかけての中国と西洋ヨーロッパの軍事的比較研究に焦点を当てた研究を行っている。

《訳者》加藤 朗 (かとうあきら) (1951年生) 桜美林大学名誉教授。早稲田大学大学院政治学研究所国際政治修士 (1981)。防衛研究所助手、所員 (1981～1996年)。ハーヴァード大学国際問題研究所日米関係プログラム客員研究員 (1989～1990年)。桜美林大学国際学部 (LA学群に改編) 教員 (1996～2022年)。専攻：国際政治学 (国際政治理論、安全保障、兵器史)。

6月下旬 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 5月31日 (金) です

FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版

〒113-0033  
東京都文京区本郷3-3-13  
http://www.fuyoshobo.co.jp  
TEL. 03-3813-4466  
FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
黒色火薬の時代		
6月新刊 本体 3,800円	部	